

スポーツ振興・健康づくり対策特別委員会 県外行政視察レポート

委員長 金谷国彦
副委員長 宮崎増次

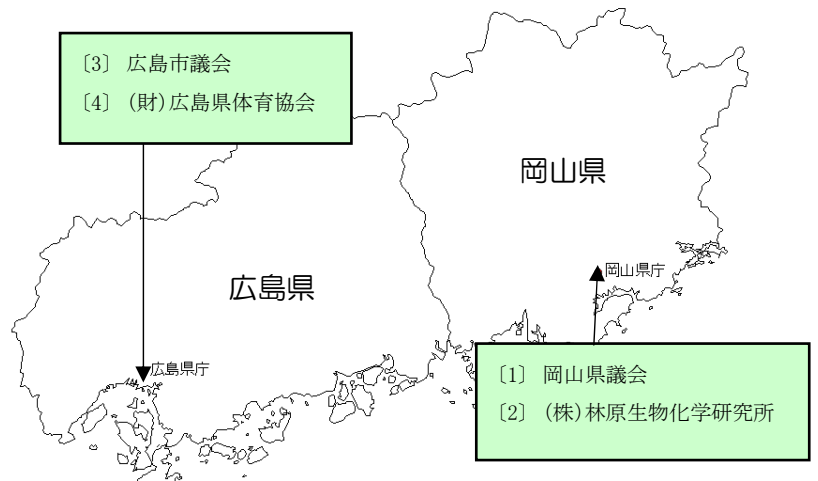
このたび、スポーツ振興・健康づくり対策特別委員会は岡山県及び広島県を訪問し、〔1〕国体開催後のスポーツ振興と地域密着型市民クラブの取組（岡山県議会）、〔2〕地域に根ざした健康食品原料の研究開発（(株)林原生物化学研究所）、〔3〕指定管理者制度を利用した新球場の運営状況（広島市議会）、〔4〕体育協会における競技力維持向上の取組（財団法人 広島県体育協会）について行政視察を行ったところであり、その概要をレポートする。

1 日程及び視察先

平成 21 年 5 月 27 日（水）	〔1〕岡山県議会〔岡山県総合グラウンド〕	（岡山市）
5 月 28 日（木）	〔2〕株式会社 林原生物化学研究所	（岡山市）
	〔3〕広島市議会〔マツダスタジアム〕	（広島市）
5 月 29 日（金）	〔4〕財団法人 広島県体育協会	（広島市）

2 参加委員

金谷国彦	佐藤浩雄
宮崎増次	横尾幸秀
小林一大	長谷川きよ
片野猛	
岩村良一	
長津光三郎	
梅谷守仁	
若月仁	



3 視察先の概要

～「晴れの国おかやま国体」開催後のスポーツ振興について～
岡山県議会 ～国体開催時に整備した体育施設の有効活用について～
 ～地域密着型市民バレーボールクラブ（岡山シーガルズ）の取組について～

(1) 岡山県と国体

岡山県では、平成 17 年に第 60 回記念国民体育大会（晴れの国おかやま国体）を開催し、「あなたがきらり☆」のローガンのもと、天皇杯、皇后杯を獲得した。

岡山県では平成 8 年に、「競技力向上十カ年計画」を策定して、強化費をつけ、有力な指導者を招き、未普及の競技については学校の運動部や地域クラブの育成を開始した。

障害者スポーツについても、平成 12 年に設立した「県障害者スポーツ協会」を中心に選手強化に努め、地道な選手強化の取組が結実した結果となった。

(2) 国体後の主なスポーツ振興施策

項目	事業名	主な取組
有望選手の発掘育成	夢アスリート発掘事業	小学生を対象に体力テストを行い、選抜した児童に対し、年代に応じた能力開発プログラムを小学校卒業まで実施する。
支援体制の整備・充実	医・科学サポート	国体強化選手等に対し、心理、栄養、動作分析等のサポート事業を実施する。
指導体制の確立	アドバイザーコーチ招へい	競技団体が実施する強化事業にトップレベルのコーチを招き、選手が直接指導を受けるとともに、指導者に対しても指導方法の資質向上を図る。
生涯スポーツ支援	私たちのスポーツクラブづくり支援	気軽にスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会の実現」を目指し、岡山県広域スポーツセンターを拠点に総合型地域スポーツクラブの設立・育成を支援する。

(3) 国体開催時に整備した主な体育施設の有効活用

岡山県総合グラウンドは、岡山県の中心部に位置し、昭和 37 年の一巡目国体時に各種施設が整備され、平成 17 年の二巡目国体では、桃太郎スタジアム（陸上競技場）の全面改修、桃太郎アリーナ（体育館）の新設等がなされた。

国体後は大規模なスポーツ大会や合宿の誘致に取り組み、バレーボールの世界大会や北京オリンピックの最終選考会（体操）が開催され、オリンピック直前には北京への直行便が開設されたことから、オランダ柔道チームや日本女子サッカーチームが合宿先として利用した。

また、サッカー J 2 のファジアーノ岡山やバレーボール V リーグの岡山シーガルズのホームとしても利用されている。

さらに、約 35ha という都市環境の向上に寄与する公園としての機能も兼ね備え、「晴れの国岡山」の利点を生かした太陽光発電や、地下に雨水を貯水して、トイレの洗浄や芝生の散水に利用するなど、環境にも配慮しており、市民の憩いの場としても親しまれている。

(4) 市民バレーボールクラブチーム 『岡山シーガルズ』

女子バレーボールのトップリーグ「Vプレミアリーグ」に所属し、バレーボール界で初の市民クラブチームとして活動中。地域密着を理念に掲げ、県内のバレーボール人口の底辺拡大や競技力向上などに取り組んでいる。国体を 5 連覇するなどの実力も兼ね備えており、元気な「岡山」を全国へ発信する役割を担う。

主な活動状況

- ① バレーボール教室・トップアスリート派遣事業を年間 120 回程度実施
- ② V リーグのホームゲームを年 5 回誘致し、全国より約 1 万人を岡山に集客
- ③ 岡山市観光アスリートメイツ（観光大使）として、岡山を全国へ PR
- ④ 「岡山シーガルズ杯・ジュニアバレーボール大会」開催。青少年のスポーツ振興に貢献
- ⑤ 地域住民との触れ合いを兼ねて、地域の大運動会や文化祭への参加

(5) 主な質疑

- 体力・年齢・目的に応じて楽しめる生涯スポーツ社会の実現に向けた支援体制について
- 国体開催後に業務を引き継いだ関係部局の予算状況について
- 岡山シーガルズが市民クラブチームとして活動に至った経緯と運営状況について



株式会社 林原生物化学研究所 ～地域に根ざした健康食品原料等の研究開発について～

(1) 会社概要

(株) 林原をはじめとするグループは、明治 16 年に水飴製造として創業。現在では、酵素・微生物とバイオテクノロジー産業のトップメーカーとして、トレハロースをはじめとするでんぷん糖化製品、抗ガン剤となるインターフェロンなどの医薬品原料、安定型ビタミン C など化粧品原料、さらに写真フィルムや光ディスク用の機能性色素などの研究・製造・販売を中心とするグループ企業へと発展した。

また、岡山を支える企業として、地元を中心とした採用による雇用の創出や岡山駅前の自社所有地の再開発や地元の伝統工芸である備前刀や備中漆の保護・育成などにも力を注ぐなど、地元とともに発展する企業として成長を遂げている。

(2) 夢の糖質『トレハロース』の大量生産に成功！

「ナンバーワンよりオンリーワンを目指す」企業精神のもと、林原生物化学研究所では、研究開発に期間を定めず、成果もすぐに求めることはしていない。「数多くの失敗や無駄と思える研究を諦めずに続けることで、そこから思わぬ発見につながることもある。他の企業ではとっくに研究を諦めたものであり、ノウハウは自分たちしかないので、成功につながれば大いに企業の成長が期待できるから」とのことである。そのために大企業にもかかわらず、株主からすぐに利益や成果を求められないよう戦略的に非上場の形をとっている。

そうした研究開発での代表的な成果がトレハロースの大量生産方法の発見である。従来、トレハロースは、高い保水力など他の糖類ではみられない多様な機能を有しており、様々な分野での活用が期待できたが、価格が高い事がネックとなっていた。しかし長年の研究の結果、デンプンからの安価な大量生産方法が発見され、今では国内シェアの99%、会社の売り上げの4割を占める主力商品として、会社の成長に大きく貢献している。

(3) 主な質疑

- 特許取得の際に行政に望む支援内容について
- 国や県が実施するベンチャービジネス分野への補助金制度に対する改善要望について

広島市議会 ～指定管理者制度を利用した新球場の運営と概要について～

(1) 球場の概要

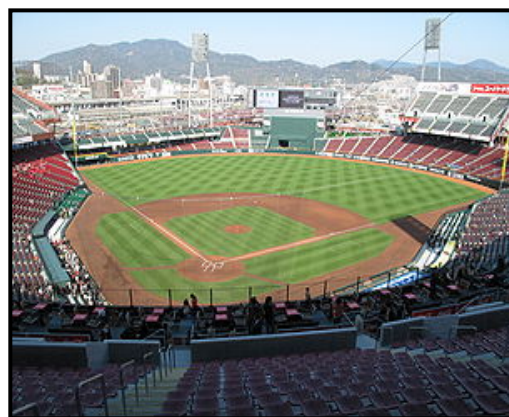
新広島市民球場は、広島市南区に新しく完成した球場で旧広島市民球場に代わる施設として、広島市が主体となって建設し、今春竣工された。

命名権導入により、名称を「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム 広島」、略称を「マツダスタジアム」としており、施設は広島市が所有し、広島東洋カープが指定管理者として維持管理を行う。

(2) 感動と興奮を共有するスタジアム

広島市民をはじめとする多くの人が何度でも足を運びたくなるユニークで多様な観客席（砂かぶり席、パーティーフロア、テラスシート、パフォーマンスシートなど）により、『みるスポーツ』に対する振興を図る。

また、低料金（半日あたり3万円）での市民への貸出を行うなど、多くの市民に利用してもらうことにより、市民に愛される真の意味での市民球場を目指す。



(3) 運営の枠組み

① フランチャイズ協定の締結

カープ球団が将来にわたって広島を本拠地として活躍するために、球団の安定的な運営が可能となるフランチャイズ協定を締結

- ・ プロ野球興業に必要な飲食・物販施設、広告スペース等の使用許可
- ・ カープ球団の負担による日常的なグラウンド整備
- ・ プロ野球興行時にカープ球団が専用使用する施設のカープ球団の負担による整備

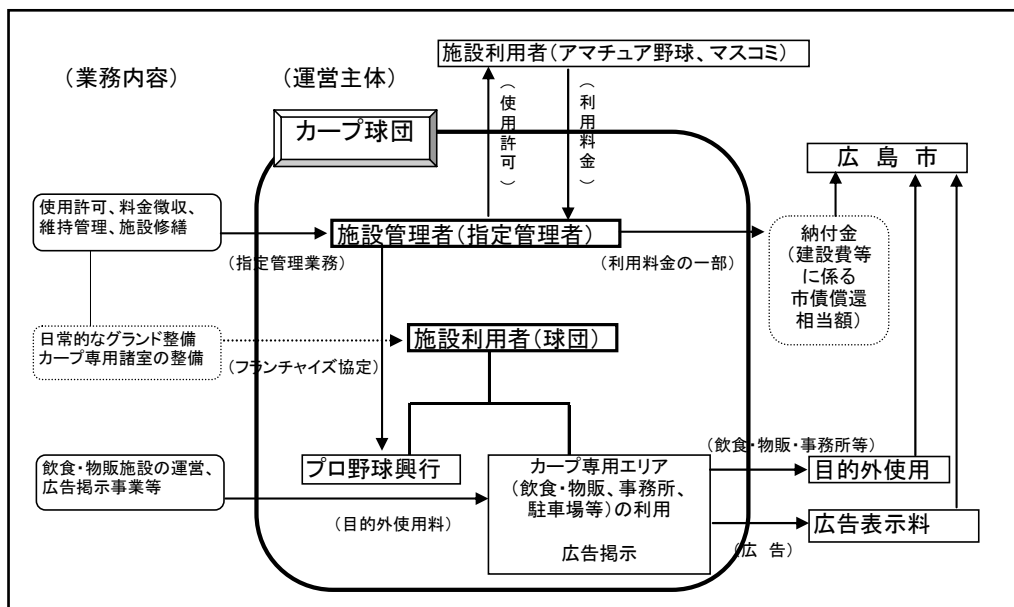
② 指定管理者の指定

施設は広島市が所有するが、維持管理についてはカープ球団を指定管理者に指定

- ・ 指定期間：平成21年4月1日から平成31年3月31日までの10年間
- ・ 指定管理者の主な業務内容

(ア) 施設の使用許可、入場制限に関すること

(イ) 施設・設備の維持管理に関すること（グラウンドの維持管理除く）



(4) 主な質疑

- 野球以外の他目的使用の可否について
- 指定管理者が可能な球場設備の改良範囲とその改良状況について

財団法人 広島県体育協会 ～国体開催後の競技団体が行っている競技力の維持向上の取組について～

(1) 広島県における国体成績の推移

広島県は、平成8年に開催した第51回「ひろしま国体」での総合優勝（天皇杯）の後も競技力向上に継続して取り組んでいる。

「資料1 国体開催後10年を経過した府県の順位の推移」では、国体開催から年数が経過するにつれて、順位を下げる県が多い中、広島県は上位の成績を残しており、大幅な順位の下落も見られない。

また「資料2 人口が同規模の府県における国体での順位の推移」においても、広島県は国体の開催にかかわらず安定した成績を残しており、長期間にわたり、継続した競技力の維持向上が図られていることがうかがえる。

資料1 国体開催後10年を経過した府県の順位の推移

年度	H2	H3	H4	H5	H5	H6	H7	H8	H9	H10
回数	45	46	47	48	48	49	50	51	52	53
開催地	福岡	石川	山形	徳島	香川	愛知	福島	広島	大阪	神奈川
年数										
開催年	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
1年後	8	16	14	39	13	3	9	9	3	8
3年後	9	16	28	36	14	8	16	9	3	5
5年後	8	18	31	20	21	5	19	15	6	7
10年後	11	39	25	45	21	4	21	13	6	4
H20 大分	10	25	38	43	24	8	31	13	5	4
開催後5年平均	8	20	24	33	15	6	16	12	4	6
開催後10年平均	9	24	26	38	21	5	19	13	4	6

資料2 人口が同規模の府県における国体での順位の推移

県名	回数	開催地																										平均順位			
		人口(H19.10.1)	群馬	奈良	鳥取	山梨	沖縄	京都	北海道	福岡	石川	山形	香川・徳島	愛知	福島	広島	大阪	神奈川	熊本	富山	宮城	高知	静岡	埼玉	岡山	兵庫	秋田	大分	新潟	開催前5年	開催後5年
広島県	2,873,350	26	33	20	23	39	12	23	16	16	11	11	12	12	1	9	14	9	15	15	16	17	15	9	13	18	13		12	12	15
宮城県	2,347,371	37	30	33	41	31	20	22	23	18	22	31	25	19	28	17	15	13	6	1	5	10	8	11	17	13	12		16	10	22
茨城県	2,968,741	20	19	18	28	26	27	32	26	22	23	19	33	20	32	26	28	26	24	19	29	22	23	27	39	25	16				27
新潟県	2,404,794	36	34	28	33	42	30	27	29	23	35	26	30	37	29	32	31	39	39	30	34	32	35	31	30	19	18		26		25
京都府	2,635,328	27	16	21	16	4	1	6	5	10	7	8	8	9	8	6	8	11	8	7	8	8	11	6	8	9	11		17	7	13

(2) ジュニアからの継続した選手育成

広島県では、現役国体選手の強化もさることながら、ジュニアからの育成に力を入れるなど長期的な取組を実施している。

＜広島県体育協会が実施するジュニアへの育成事業＞

- 広島ジュニアスポーツクリニック
 - トッパス広島（広島に本拠地を置く広島東洋カープやサンフレッチェ広島などのプロチームや実業団からなるネットワーク）の所属選手によるスポーツ教室を開催する。
- トッパススリート育成事業
 - 全国レベルでの大会で活躍が期待できるジュニア競技選手を対象に、スポーツ医・科学の各種研修を行い、競技力の向上を図るとともに、ジュニア選手のリーダーとして養成する。
- スーパージュニア選手育成プログラム
 - 小学校5～6年生を対象にトライアルを実施し、選抜された児童に対して、様々な競技に挑戦してもらい、中学校入学時に個人の能力・適正に応じたスポーツを自ら選択するための指導・助言を行う。

(3) 主な質疑

- 国体に向けた選手強化の予算と協賛企業など県以外からの補助の状況について
- 育成強化した選手が県外流出する現状と県内定着の対策について
- 国体に向けて強化している競技と得点源となっている競技について